

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギベと病の防除対策の徹底について

早生・中晩生タマネギにおいて、べと病の一次感染株（越年罹病株）の発生が増加しています。ついては、下記を参考に、一次感染株の速やかな抜き取りと、継続的な薬剤の予防散布の徹底について、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況（令和5年3月1～2日調査）

- (1) マルチ栽培8圃場（早生品種主体）の定期調査では、一次感染株の平均発生株率は0.19%、発生圃場率は50%であり、前回調査（2月14～16日）から増加した（表1）。
- (2) 露地栽培10圃場（中晩性品種主体）の定期調査では、一次感染株の平均発生株率は0.04%、発生圃場率は20%であり、前回調査（同上）から増加した（表1）。

表1 定期調査におけるタマネギベと病一次感染株の発生株率(%)

	マルチ栽培圃場			露地栽培圃場		
	2月下旬	3月上旬	3月下旬	2月下旬	3月上旬	3月下旬
本年(令和5年)	0.05	0.19		0.01	0.04	
平年	0.07	0.11	0.21	0.04	0.25	0.42



写真 ベと病一次感染株（令和5年3月1日撮影）

2. 気象に基づく今後の発生予測

- (1) 福岡管区気象台が3月2日に発表した九州北部地方の1か月予報では、降水量は平年並か少ないものの、天気は数日の周期で変わると予想されている。このため、曇雨天等の感染に好適な条件が出現した場合は、本病菌による感染が助長されると予想される。

3. 防除対策

(1) 一次感染株の抜き取り徹底

一次感染株は周囲への伝染源となるため、**圃場の見回り**をこまめに行い、発生を認めた場合には**直ちに抜き取る**。抜き取った株は圃場に放置せず適切に処分する。

(2) 薬剤防除による二次伝染の予防

最新の気象予報や図1を参考に、薬剤による**予防散布を徹底**する。

防除対策の詳細については、佐賀県病害虫防除のてびき〈麦類・野菜・花き・飼料作物〉を参照する（p265～268）。

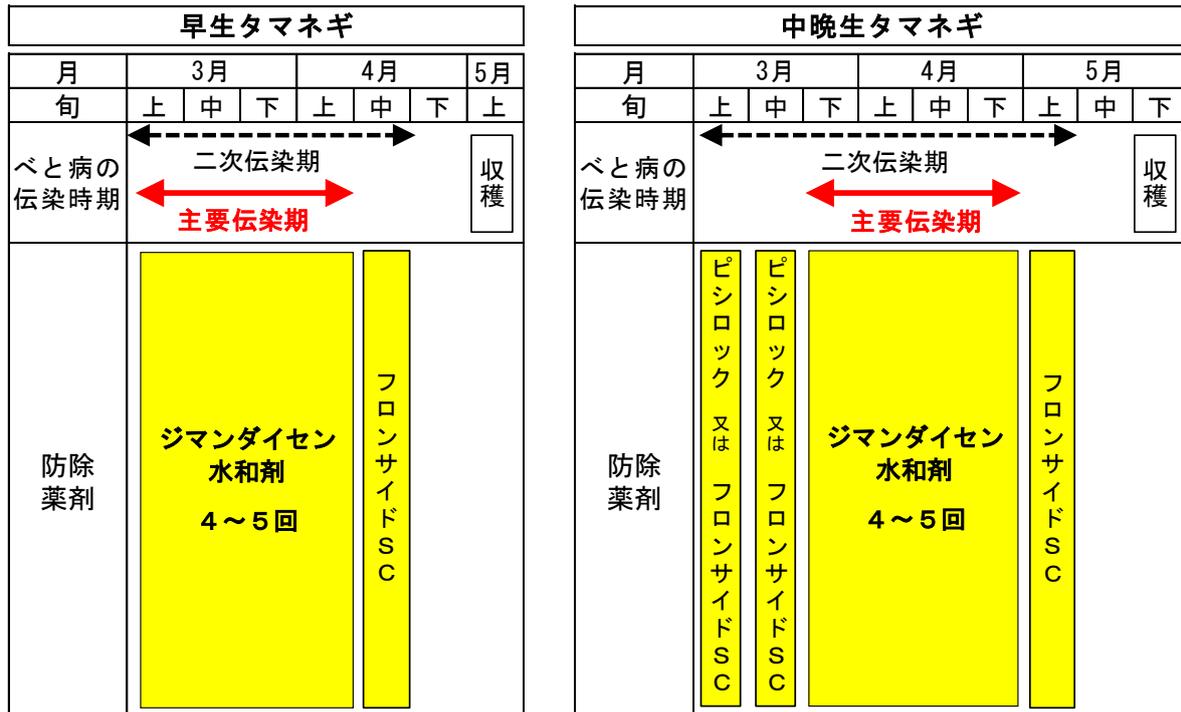


図1 タマネギべと病の伝染時期と薬剤防除体系（例）

【ジマンダイセン水和剤散布にあたっての留意事項（各作型共通）】

- (1) 10日間隔での4~5回散布を基本とするが、前回散布の7日後以降に曇雨天が予想される場合は、前倒しで散布を行うなどして、**雨前の散布を徹底**する。ただし、防除効果を安定させるため、散布から降雨までの時間を、少なくとも24時間は確保する。
- (2) 本剤には、展着剤として、ミックスパワー、まくぴか、ニーズ、ササラのいずれかを加用する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

防除のてびき掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>

防除セQRコード[†] てびきQRコード[†]

